

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號五第 卷九十第

行發日一月一十年三十正大

論叢

娛樂税の構成……………法學博士 神戸 正雄

フイアカントの社會學論……………文學博士 米田庄太郎

獨占の本質……………文學博士 高田 保馬

天保時代の西陣……………經濟學博士 本庄榮治郎

時論

小麥及小麥粉關稅引上是非……………法學博士 河田 嗣郎

營業稅廢止論を評す……………法學博士 小川郷太郎

說苑

リカアドの價值論に就て……………經濟學士 森 耕二郎

雜錄

政府の輸出貿易振興策に就て……………經濟學士 谷口 吉彦

獨逸最近の乳兒死亡率……………經濟學士 岡崎 文規

雜 錄

政府の輸出貿易振興策

に就て

谷 口 吉 彦

一

傳ふる所に依れば、久しく農商務省に於て研究中であつた輸出貿易振興策は、最近漸く成案を得て、近く省案として決定さるゝ様である。

詳細なる内容は固より知り得ないが、輸出振興策としては、輸出商人をして輸出組合を組織せしめ、大體次の如き要項に従つて、之に資金融通の途を與へんとするものゝ様である。¹⁾

一、輸出組合の組合員たるものは、直接輸出商即ちその債權債務關係が國際的なるものに限る。

二、組合組織の地區は之を限定せず、全國的なるも、府縣乃至一都市を地區とするも差支なく、且つ自由加入とする。

三、組合は單に斡旋機關たるに止まり、組合員の營業の獨立的

第十九卷 (第五號 一五〇) 七八四

を認める。

一、資金の融通は、組合員の營業資金と、輸出手形保證の二種とし、是等の資金を銀行が融通した場合、その七割を限度として政府が保證する。

二、政府の保證總額は、一億二千萬圓を以つて最高限度とする。

政府の所謂輸出貿易振興策にして單に右の範圍に出でないものだと思へば、其は要するに輸出資金に關する金融政策に外ならぬ。私は茲で輸出金融並びに之に類似の政策が、輸出を振興する上に如何なる意義を有するかを考へて見たい。

言ふ迄もなく一國の貿易狀態を改善する方策は、輸出の促進と輸入の抑制との兩方面に存するものなるが、私の見る所では、一國民經濟の立場より見る時、兩者は根本的に其の性質を異にするものゝ様である。即ち輸出は元來 *passive* なものであり、外因に依ること大なるに反し、輸入は *active* であり、内因に支配さるゝこと大なるものである。換言せば、輸出の促進は、他國の事情に依存すること大なるに反し、輸入の

1) 大阪朝日新聞 (十月五日) 所載。

抑制は、自國の事情によつて支配さるゝ程度の大なるものである。更に他の言葉を以つてせば、輸入の抑制は、自國貨幣の對内購買力を高め、その對外購買力を低めることに依つて行はるゝに反し、輸出の促進は、外國貨幣の對内購買力を低め、その對外購買力を高むることに依つて行はるゝ。例へば吾國の物價が低下して、米國の物價に變化なく、且つ爲替相場に變動なしとせば、圓の對米購買力に變化なき代り、その對内購買力は高まるから、他の事情にして同一なる限り、それだけ輸入は抑制せらるべく、同時に、弗の對内購買力に變化なき代り其の對日購買力は高められるから、それだけ輸出は促進されるであらう。かくの如く輸出促進の根本動機は、外國貨幣の對日購買力をば、その對内購買力よりも高からしむるに在る。弗をしてより多く吾が商品の購買に向はしむるに在る。輸出促進が本來 *Passive* であるとは即ち此のことを指すものなるが、然らば、弗の對日購買力を促進するには如何なる方策あるか？

二

弗の對内購買力は、米國物價指數の逆數であるから、之を吾が國民の意思に依つて左右し得ることの不可能なるは言ふ迄もない。従つて問題は、弗の對日購買力を高むることに依つて、その對内購買力との間に相違あらしむるの一途に歸する。弗の對日購買力は、第一に、弗を以つて幾何の圓を買ひ得るか——即ち爲替相場——に依つて定まり、第二に、其の得たる圓を以つて幾何の日本商品を買ひ得るかに依つて定まる。従つて爲替相場に變化なしとせば、弗の對日購買力は、圓の對内購買力の増加に比例して増大すべく、それだけ對米輸出は促進さるゝであらう。又爲替相場が下落(外貨値)するならば、吾國の物價に變化なくとも、弗の對日購買力はそれだけ促進さるべく、物價が下落すると同時に爲替相場も亦下落するならば(他の事情にして同一なる限り、此の場合實際には爲替は騰貴する筈であるが)其の相乗積だけ輸出は促進さるゝであらう。要するに輸出促進に對して直接の動機を與ふるもの

は、爲替に變化なき限り物價の低下であり、物價に變化なき限り爲替の低下に外ならぬ。

輸出促進と輸入抑制とが、其の性質を異にするといふは、二者各々異なる原因によつて惹き起さるゝことを意味しない。右に述ぶるが如く、一國の物價を引下げる時は、この一原因はよく其國貨幣の對内價值を増して輸入を抑制すると同時に、外國物價と爲替に變化なき限り、外國貨幣の其國に對する購買力を高めて輸出を促進することゝなるであらう。それ故に、一を *passive* と言ひ他を *active* と言ふも、其は唯だ直接原因に於ける相違、若くは影響の過程に於ける相違に過ぎないことは勿論である。

固より貿易狀態は物價に依つてのみ左右するものではなく、輸出品の品質改良、新市場の開拓等物價と直接の關係なき輸出促進策もあり得るけれども、今日何れの世界市場と雖も一國の獨占を夢むべからざるは明らかなり、新市場の開拓は歸する所、品質及び價格の競争である。さうして品質及び價格の競争は要するに價

格の競争に外ならぬ。従つて私は、物價の影響を以つて最も直接且つ根本的な要素となすものであつて、それ以外の一切の促進策は、此の根本動機の備つた後に、之を助長するための條件を供するに過ぎぬものであり、政府の輸出貿易振興策も亦此の例に外ならぬ。勿論此の根本動機の備はるに於ては、此等の諸條件は、あればある丈け其の効果を發揮し得るであらうけれども、根本動機の備らざるに是等の條件のみ存することは、あれども無きに等しき結果となるであらう。

吾國今日の輸出不振は、言ふ迄もなく物價の高きことがその根本原因である。今日の如き物價と爲替に於ては、諸外國貨幣の對日購買力は、それぞれの對内購買力よりも遙かに低く、従つて吾が商品の買付けを刺激すべき理由がない。此際吾國の採るべき輸出促進策は、物價の引下げに依つて輸出の根本動機を喚起する外に途はない。其他の一切の施設は、此の動機の喚起されたる後に於て、若くはそれと同時に、施

三

れにヒントを得たものだと思へば、其は舷に刻して劔を索むるの類であらう。何故かと言ふ

[illegible]

若し又政府の輸出振興策が、英國往年の振興²⁾策に依つたものだとするれば、若くは少くともそ

に、當時英國の物價は、諸國に比してさまで高からず、吾國と略々同位にあつた上に、爲替相

場は一九一九年の unpegging 以來暴落して居たから、外國より見たる英國の物價は、當時遙かに諸外國の下位にあつた。従つて輸出の根本動機は既に十分に具備されて居たが、唯輸出金融の梗塞に依つてそれが沮害されつゝあつた時期である。此の如き場合に於ける輸出金融の緩和は、腰き止められたる水を決する如く、輸出を促進するに至るは當然である。今英國當時の物價及び爲替相場を示せば右の如くである。

是に由りて見るに、當時英國の物價は、吾國より見て約二割乃至二割五分の低位に在つたことが判るであらう。然るに吾國の現狀に就て、米國に對する同様の關係を見るに、次の如くなる。

吾國の物價は、米國に比し約五割の高位に在るから、今日の爲替暴落を以つてするも尙且つ二割乃至三割の高位に在る。それ故に今日の物價を以つて金禁輸に居る間は、爲替の暴落は寔に當然であり、之を自然に放任せば、更に著しく低落するであらう。假りに物價が現在の如く

大正十二年													大正十三年												
米國物價を以て見たる日本物價指數	米國物價を以て見たる日本物價指數	米國物價を以て見たる日本物價指數	米國物價を以て見たる日本物價指數	米國物價を以て見たる日本物價指數	米國物價を以て見たる日本物價指數	米國物價を以て見たる日本物價指數	米國物價を以て見たる日本物價指數	米國物價を以て見たる日本物價指數	米國物價を以て見たる日本物價指數	米國物價を以て見たる日本物價指數	米國物價を以て見たる日本物價指數	平均	米國物價を以て見たる日本物價指數	米國物價を以て見たる日本物價指數	米國物價を以て見たる日本物價指數	米國物價を以て見たる日本物價指數	米國物價を以て見たる日本物價指數	米國物價を以て見たる日本物價指數	米國物價を以て見たる日本物價指數	米國物價を以て見たる日本物價指數	米國物價を以て見たる日本物價指數	米國物價を以て見たる日本物價指數	平均		
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	二	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	1										

- 3) 英國の物價指數は Economist(倫敦)に依り、日本のそれは日銀調査(東京)に依る。日英爲替相場指數は、正金銀行大阪支店保存の原簿、爲替相場表に據り、倫敦宛 T. T. Selling の營業日數に依る平均を其月平均とし、大正三年七月平均を 100 として計算したるもの。
- 4) 日本爲替相場指數とは、上の物價指數を爲替相場指數にて除したるもの、即ち日英爲替を通じて見たる英國物價指數の意味である。
- 5) 米國物價指數は Bradstreet (紐育)に據る。日本爲替相場指數は、前と同じ材料に據り、紐育宛 T. T. Selling を探る。米國より見たる日本物價指數は、上の物價指數に爲替相場指數を乗じたるもの。即ち日米爲替を通じて見たる吾國物價である。

々たる金融政策を提げて起つが如きは、輸出振興に及ばず効果を期すること蓋し困難であらう。

私は茲に輸出振興に關する具體的の積極案を論議するの餘裕を有たぬ。併し乍ら其は單なる貿易政策乃至金融政策に存すべきでない。直接に有效なる應急策としては、物價引下に依る外國購買力の促進の外になく、間接なる根本的政策としては、單なる貿易政策以上に、廣く深く、産業政策殊に工業政策上から考察さるべきであらう。固より貿易乃至輸出の立場からのみ見る時は、政府の振興策として傳へらるゝが如きものも亦、『有るは無きに優る』であらう。けれども國家の政策は、富豪の臺所の様に、無きに優る程度の施設に巨大の勞費を費すべきでない。特に今日の吾國に於ては、貧乏人の臺所と同じ様に、最も緊急なる用途に向つて最も有効に最少の經費を支出すべきであり、一億圓の資金は輕々に用ふべきでない。要するに、吾國の現狀に在つて政府の方策なりと傳ふる輸出振興策の

如きは、之を譬へば、水なき河を決するが如きものであらう。私は其が何等かの誤報なるべきことを希ふものである。(二三、一〇、一〇)